

人権教育啓発標語入選作品

西小学校

お互いの良さを認めて繋がる。  
 だいじょうぶやさしい仲間がそばにいる。  
 言うまえに考えてみてその言葉

最優秀賞 六年 熊木 柚希  
 優秀賞 五年 酒巻 奏羽  
 優秀賞 五年 大谷 彩寧

東小学校

まもろうよ君の笑顔と自分の笑顔  
 いいところいっぱいみつけておともだち  
 ごめんねとあなたに言える小さな勇氣

最優秀賞 六年 田島亜麻寧  
 優秀賞 一年 大竹 柚衣香  
 優秀賞 五年 清水 心道

人権教育啓発ポスター入選作品

《中学生の部》



千代田中学校3年 高橋 歩美 (最優秀賞)



人にやさしいまちづくり

千代田町

令和4年度 人権教育啓発資料



千代田町人権教育推進協議会  
 千代田町教育委員会



# 人権教育啓発作文入選作品

私のおじいちゃんが入院した時、お見まいに行くのでいつのまにか、眼科や外科、内科などいろいろな病状の患者さんと知り合いになった。部活で足を骨折した人、骨を悪くして入院した人、目の手術を受けた人など、年齢や性別、職業も様々で、ふだんあまり接することのない人たちと話す機会に恵まれた。病気やケガの苦労したみたいな話はもちろんのこと、世代の違う人たちの話はとてもおもしろかった。「人権について」考える時、一人の患者さんのことを思い出した。

人権侵害とは、障がい者やお年寄りなど、立場の弱い人達に対する差別や悪意のある偏見からくるものばかりだと思っていた。ところが、たとえ善意であっても思わぬところから人権の侵害になっていることがあるのだと考えさせられるのであった。目の手術を受けた人は、優しくすると逆に悲しくなると言っていた。優しくすることは、いわば常識しており、当然のことだと思っていたのでショックを受けた。お年寄りや障がい者をいたわるのは当たり前であり、それは感謝されることはあつて

(最優秀賞) 人権を守る 千代田中学校3年 大塚 海里

も、迷惑に思うなどは筋違いではないだろうか。ところがその人の立場から見れば、好意のつもりでも、まるで小さな子どものように扱われたり、危険だからと遠ざけられてしまったりと悲しいようだ。私ははっとした。いつの間にか相手より自分を少し高い所に置いていたのではないだろうか。

確かに、弱者をいたわり、手助けすることは、人として当然であり必要なことである。しかし、相手の気持ちや状況を考えずに、ただ一方的に押しつけるだけの親切はただの自己満足でしかない。「人権」について考えること。それはとても難しいことのように思えるが、意外と簡単なことではないだろうか。同じ人間同士が並んで歩くための人と人との間の権利。私たちが無意識のうちに作り出している優劣の壁を取り払うこと。自分の価値観を人に押しつけないこと。自分も相手も同じひとりの人間なのだ、その人の心に寄り添い、理解し合う努力こそ、人権を守る力になると思う。

# 人権教育啓発ポスター入選作品

《小学生の部》



西小学校1年 <sup>たかの</sup>高野 <sup>めい</sup>芽依  
(最優秀賞)

見つめよう わたしの人権



# 人権教育啓発ポスター入選作品

《小学生の部》



東小学校4年 <sup>たくち</sup>田口いのり  
(最優秀賞)

考えよう あなたの人権

